

国営明石海峡公園淡路地区の 現状と課題

国土交通省近畿地方整備局
国営明石海峡公園事務所

本会議の対象



- 国営明石海峡公園淡路地区は、第一期供用から20年以上を経過し、様々な効果を発現する一方で、課題も見られるようになってきているところ。
- 社会情勢の変化や公園の利用状況等を踏まえた、公園の活性化に向けた今後の整備及び管理運営に関する方針策定を行うため、有識者や関係機関等による議論を開始する。
- 当該活性化方針は、本公園における基本計画における理念、基本方針等を基本としつつ、社会情勢の変化、公園施設の設置・運営に係る主体の拡大等の状況も考慮に入れ、本公園の活性化を目的として、策定するものである。
- なお、用地取得がこれからとなる展望ゾーンは当面の間、議論の対象から外す。

公園の概要

国営明石海峡公園の概要

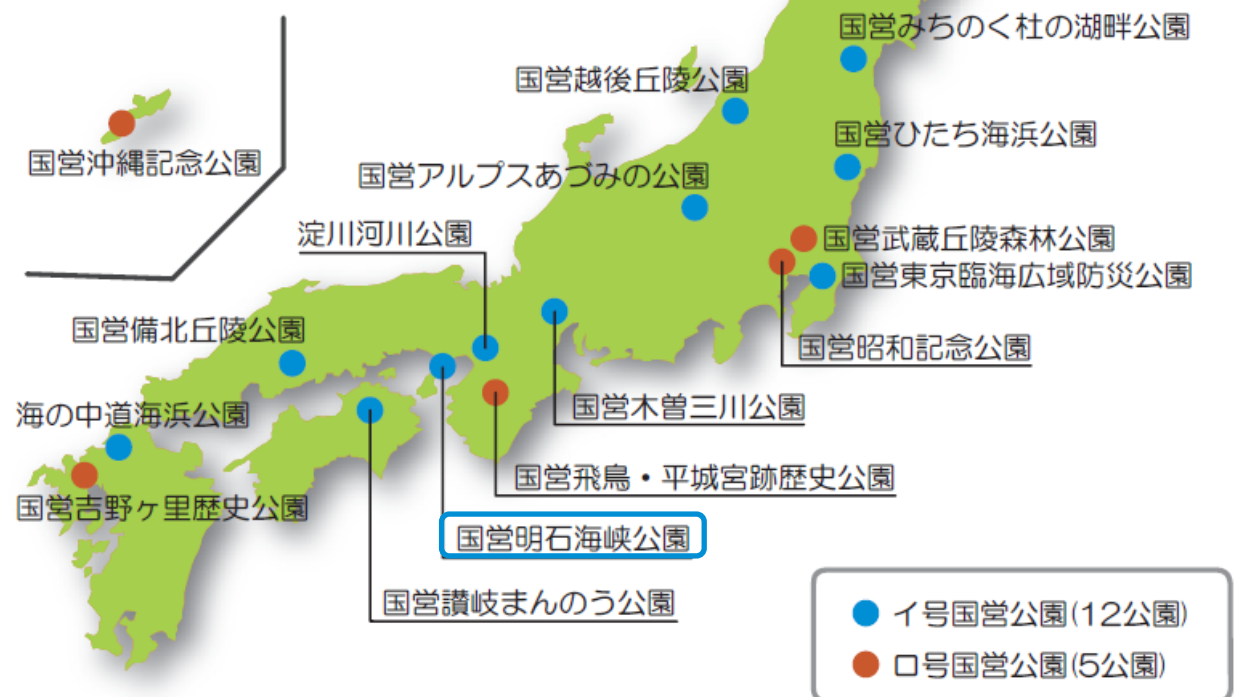
- 国営明石海峡公園は、明石海峡大橋を挟んだ周辺地域の広域的なレクリエーションニーズに対応するため、「神戸地区」と「淡路地区」の2地区で構成する、国が整備・管理を行う都市公園（国営公園(イ号)）
- 平成6年度に公園基本計画を策定。基本理念は「自然と人との共生、人と人との交流」。
- 平成5年度に事業化し、淡路地区は平成14年3月、神戸地区は平成28年5月に第一期開園。

◆イ号国営公園

一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園又は緑地（災害時に広域的な災害救援活動の拠点となるものとして国が設置する都市公園と国が設置するその他の都市公園に分けられる）

◆ロ号国営公園

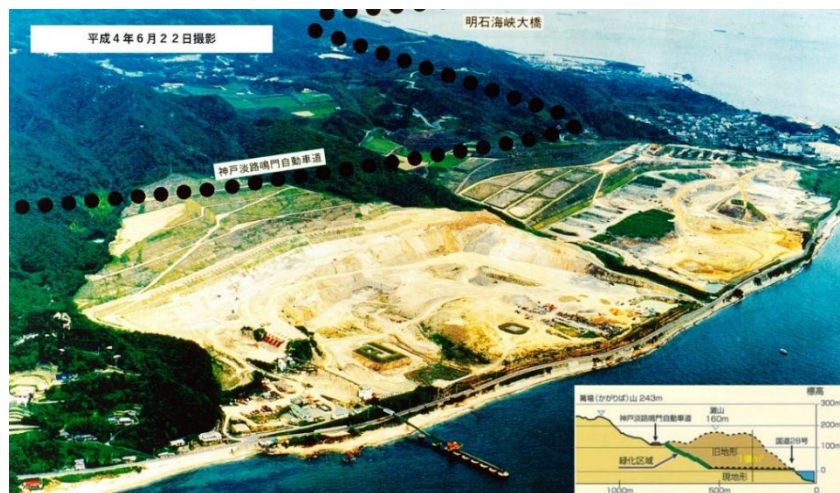
国家的な記念事業として、又は我が国固有の優れた文化的資産の保存及び活用を図るために閣議の決定を経て設置する都市計画施設である公園又は緑地



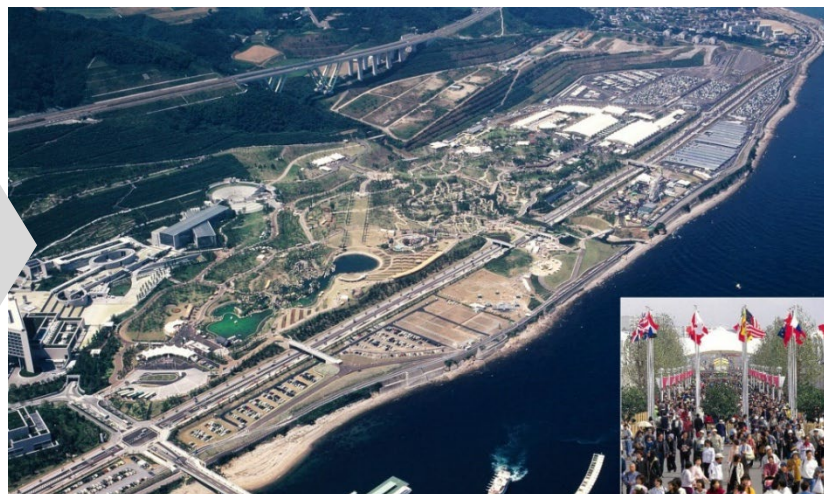
神戸地区	位置：兵庫県神戸市北区・西区 計画面積：約234ha 開園面積：約46ha
淡路地区	位置：兵庫県淡路市 計画面積：約 96ha 開園面積：約47ha

淡路地区の概要

- 国営明石海峡公園 淡路地区は、関西国際空港等の大阪ベイエリアの埋立に使用された**土取場跡地を兵庫県と連携して自然再生**。
- 「**海辺の園遊空間**」をコンセプトに国際的な観光拠点となる公園として整備。平成12年に国際園芸・造園博「**ジャパンフローラ2000**」の会場となり、**平成14年3月に第一期開園**。
- 年間入園者数は約50万人**。令和4年3月に開園20周年を迎え、淡路地区の累計利用者数は令和6年度時点で**1,000万人を超えた**。
- 令和2年に国営公園では初の**Park-PFIの事業計画（公募設置等計画）を認定**。**令和4年7月に施設オープン**。



関西国際空港等の埋立に使用された土取場跡地



国際造園・園芸博「ジャパンフローラ2000」開催



淡路地区の整備状況



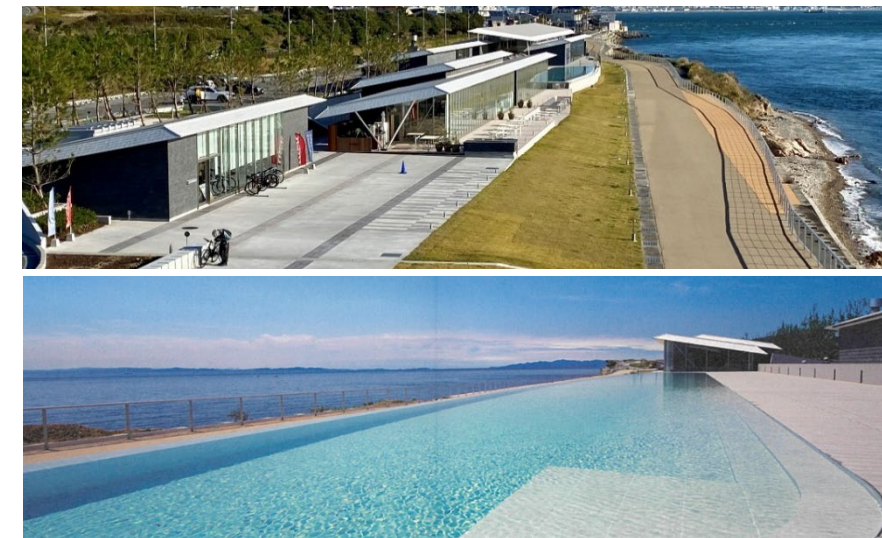
淡路地区の開園区域：大規模な花修景



大型遊具・水遊び場（じゃぶじゃぶ池）



芝生広場でのイベント（淡路市夏まつり）



Park-PFIによる複合温浴施設「アクアイグニス淡路島」

神戸地区の概要

- 神戸地区は、「**里地里山文化公園**」をコンセプトに整備を進め、**大都市近郊に残された里地里山**（藍那地区）の環境・景観を保全再生しつつ、レクリエーション空間として活用。
- 平成28年5月に第一期開園**（愛称:あいな里山公園）し、**年間入園者数は約4～5万人**。
- 農作業体験、自然観察、伝統行事の再現など「**二十四節気七十二候**」で表される、日本の伝統的な季節の移り変わりを感じられる多様な**里山体験プログラム**を展開。小中学校等の環境学習の場として地域と連携。
- 開園前から市民協働**による公園づくりに取り組み現在**15の市民活動団体**が**公園の管理運営に参画**。



チョウの観察会



神戸地区の位置と整備状況



再生した棚田での早乙女田植え・稲刈り体験



市民協働による年始の「とんど焼き」

淡路地区の隣接施設

兵庫県立淡路島公園（面積134.8ha 昭和60年4月開設）

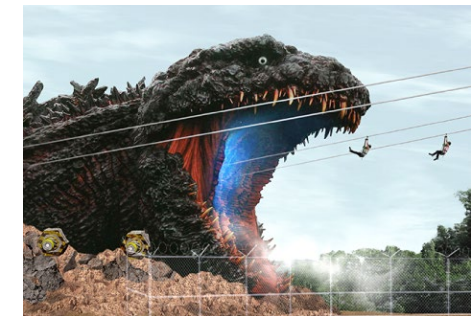
- ・ 淡路島北端の丘陵地に位置し、大阪湾から明石海峡までを見渡せる願望、豊かな自然の魅力を備えた公園として開園
- ・ 自然環境と観光・交流機能の両立を目指し兵庫県が整備・管理
- ・ 「淡路アニメパーク構想」に基づき、民間活力導入によるアニメをテーマとしてアクティビティ体験を加えた先進的な観光交流型公園を目指している



展望広場（森のゾーン）



オアシス館（ハイウェイオアシスゾーン）



ニジゲンノモリ

〈出典〉兵庫県立淡路島公園HP・ニジゲンノモリHP

淡路市夢舞台サスティナブル・パーク

- ・ 淡路市の一部として構想された職住一体型コンパクトシティーのモデル地区
- ・ 約7.4haに及ぶ兵庫県庁および淡路市の公有地を対象に、聖隷淡路病院、聖隷こども園他、株式会社パソナグループが中心となる民間事業者による複合開発が進行中
- ・ 現在はイベント実施会場や大型イベント時の臨時駐車場としても活用されている



淡路聖隷病院



2025年4月上旬～10月下旬
AWAJI EXPO ROAD
—国生みの島淡路島だけで楽しめるスペシャルイベント—

大阪・関西万博と連動した
イベント実施

〈出典〉(株)パソナグループHP

淡路夢舞台（面積28ha 平成12年3月開業）

- ・ 荒廃した土取跡地に自然環境の回復と創造を図り、大阪湾ベイエリアにおける交流拠点を目指すことを基本理念とした「淡路島国際公園都市」の中核施設として整備
- ・ 灘山緑地、国際会議場、温室、交流の翼港等の公の施設及びホテル、展望レストラン等の収益施設から構成される複合型施設
- ・ 各施設の運営は株式会社夢舞台が担当し、施設の所管は兵庫県庁内の複数部局で分担



国際会議場



ホテル（グランドニッコー淡路）



温室（あわじグリーン館）

〈出典〉淡路夢舞台HP・兵庫県HP



淡路地区の整備経緯

- 淡路地区は「**海辺の園遊空間**」をコンセプトに、関西国際空港等のために土取りがなされた大規模跡地の自然を回復する整備が進められ、国際的な交流の場としての環境の中で新たな園遊空間の創出を図ることを基本として整備を進めている。
- 現在は、淡路島の持つ「花」「海」「島」の全体景観を基調として、四季折々の花や季節の花木だけでなく、淡路の風土に馴染むクロマツやハマボウ等の植物が多く植栽され、自然回復している。



土取り跡地の緑化により自然回復した国営明石海峡公園淡路地区



淡路地区の歴史(淡路花博の開催)

- 「海辺の園遊空間」をコンセプトに国際的な観光拠点となる公園として平成6年より整備。
- 平成12年に国際園芸・造園博「**ジャパンフローラ2000（淡路花博）**」の会場となり、平成14年3月に第1期開園をした。



開園状況

- 平成14年に淡路地区を開園して以降、順次開園区域を拡大しており、令和7年度現在、計画面積96.1haのうち、**47.2ha**を供用している。
- 直近では、令和7年5月にシースケープ・フィールドエリア北側の第8期開園が部分供用された。

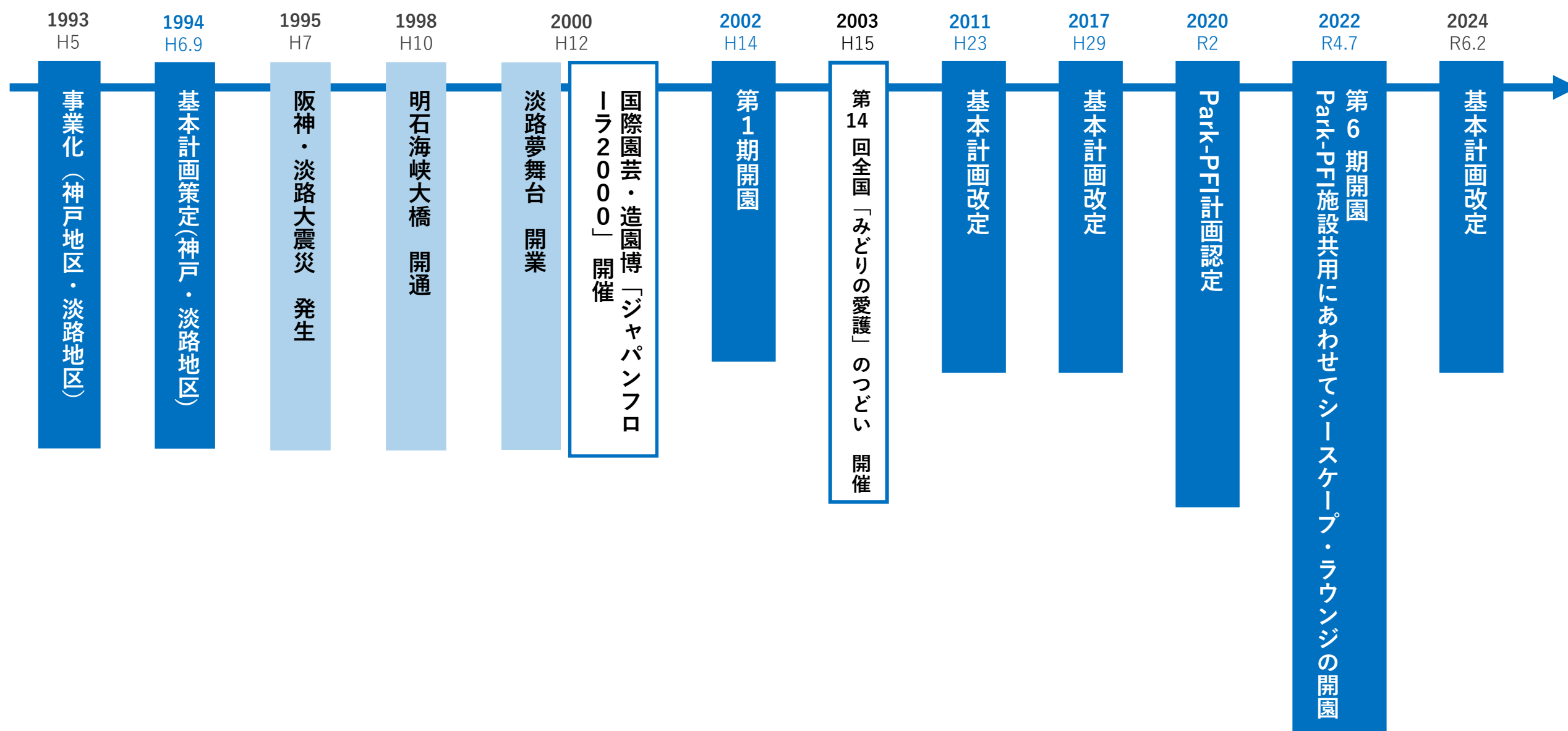
年度	項目
平成5年度	国営明石海峡公園の事業化
平成6年度	都市計画決定
平成7年度	工事着手
平成13年度	文化交流ゾーン、海岸ゾーンの各一部 供用開始
平成15年度	移ろいの庭、芝生広場 供用開始
平成16年度	ビジター棟、淡路口ゲート棟、芝生広場大型複合遊具 供用開始
平成22年度	淡路口駐車場、9号園路 供用開始
平成28年度	淡路口駐車場、細園路等 供用開始
令和4年度	シースケープ・ラウンジエリア 供用開始
令和7年度	淡路口駐車場の一部 供用開始 シースケープ・フィールドエリア北側 部分供用開始





淡路地区の歩み

- 平成3年度に国営明石海峡公園（仮称）整備促進協議会が発足し、平成5年度に2地区を事業化。
- 平成6年度に公園基本計画（2地区）を策定し、淡路地区は平成6年度に都市計画決定及び平成7年度に都市計画事業承認。
- 平成12年度に国際園芸・造園博覧会が開催され、平成14年度に淡路地区第1期開園し第8期まで順次開園。
- Park-PFI認定に向けて平成30年度に淡路地区海岸ゾーン民間活用検討委員会を発足し、令和2年度に国営公園初となるPark-PFI認定を行った。※Park-PFI施設は令和4年度に供用開始。

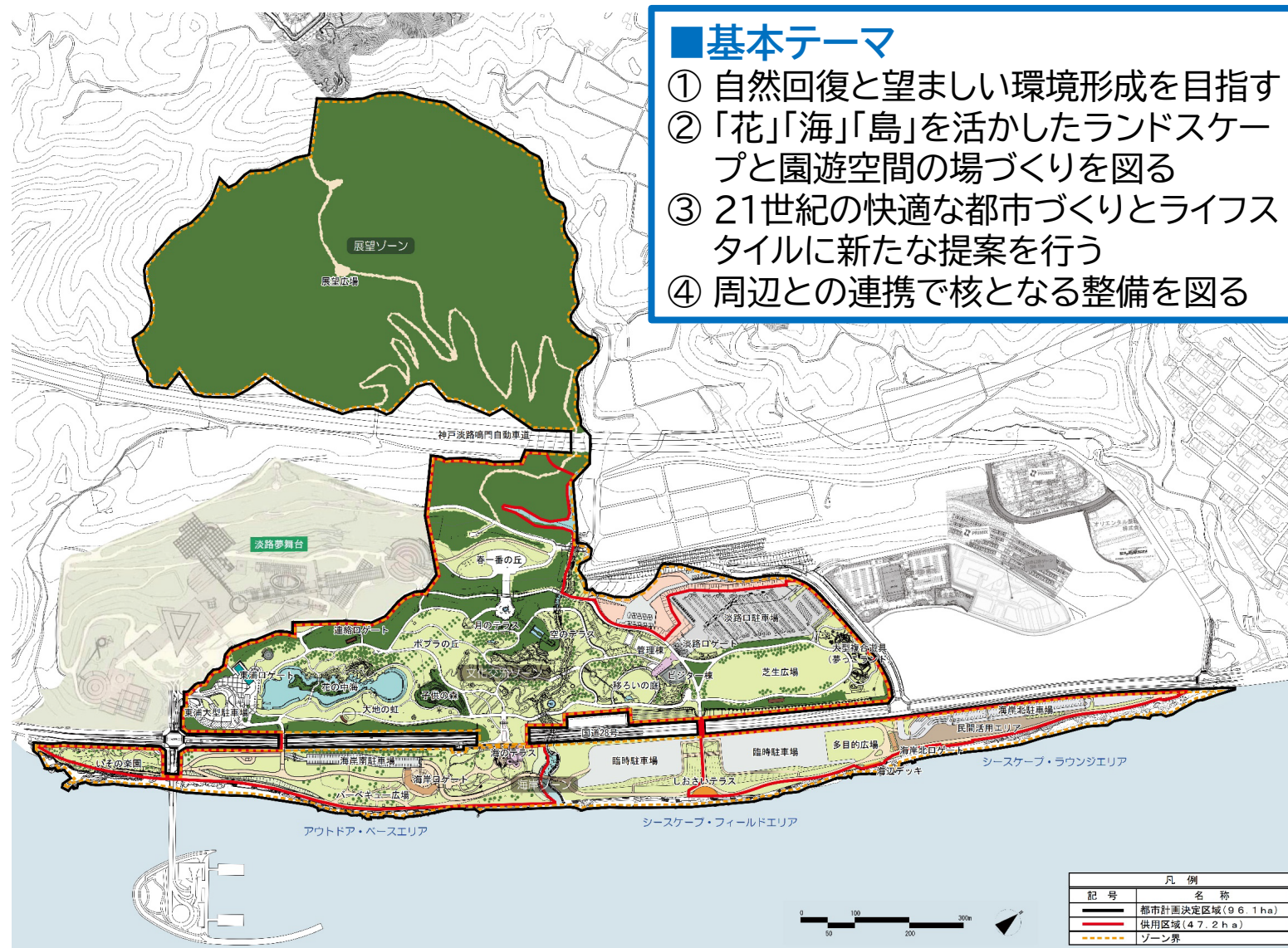




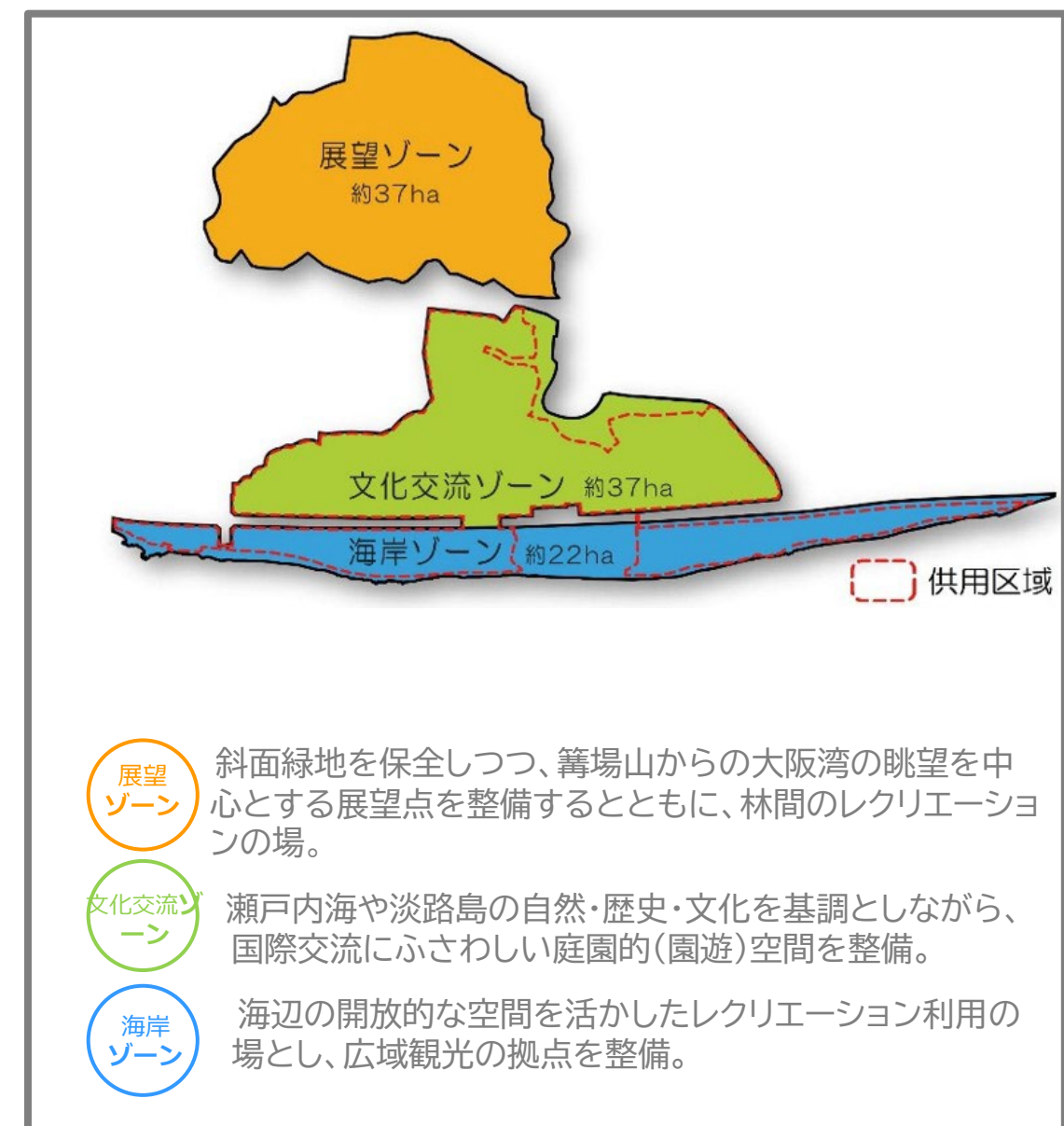
淡路地区の基本計画

- 淡路地区は、4つの整備方針を軸に、瀬戸内海の広域観光の周遊ルートにおいて、淡路島の魅力を国内外に発信する公園を目指して、インバウンドを含めた広域的な観光客の取り込みに向けた公園づくりを展開していく。
- それぞれの立地特性等から3つのゾーンに分けて計画。各ゾーンは「**篝場山（かがりば山）**」「**大規模な土取り跡地**」「**海岸地**」という特徴的な敷地条件に対応した計画としつつ、新たな園遊空間の創出を図る。

■淡路地区計画平面図



■ゾーニング



官民連携方針の策定

- 平成29年度に改定した「国営明石海峡公園基本計画」に基づき、淡路地区海岸ゾーンを整備実施し、「シーσκεープ・ラウンジ」については、公募設置管理制度（P-PFI）を活用し、令和4年度に施設供用を行ったところ。
- 現在公募中の「アウトドア・ベースエリア」のP-PFI事業に伴い、事業者からのヒアリング結果を踏まえて、令和7年度より有識者委員会における議論を経て、新たに公園管理者としての考えを示す「**推進方針**」を策定を行った。

■早期に進めるべき取組の具体的な方針

項目	主な具体策・留意事項
(1) 多様な主体との連携による魅力向上	○民間事業者との連携による魅力向上を推進 ○以下が見込まれるよう公募条件を検討 ・園内の賑わい創出 ・利用者サービスの持続可能な形での提供 ・地域との連携 ・本公園淡路地区内や淡路夢舞台等の隣接地で既に取り組まれている事業と相乗効果
(2) 海辺の景観を活かした整備と保全・活用	①質の高い海辺のアウトドア体験の実現 ②景観の保全 ・文化交流ゾーンや淡路夢舞台等からの眺望を保全
(3) シースケープ・ラウンジエリア等との連携強化	・公園利用者の園内移動への配慮
(4) 整備・管理両面における安全・安心な利用や快適性の確保	・基本計画に位置づけられている「ダイバーシティ&インクルージョン」の考え方を踏まえ、多様な利用者に配慮 ・洗掘を受けている護岸の整備を継続し、完了 ・利用者層・利用者数の想定に基づいた妥当性・実現性

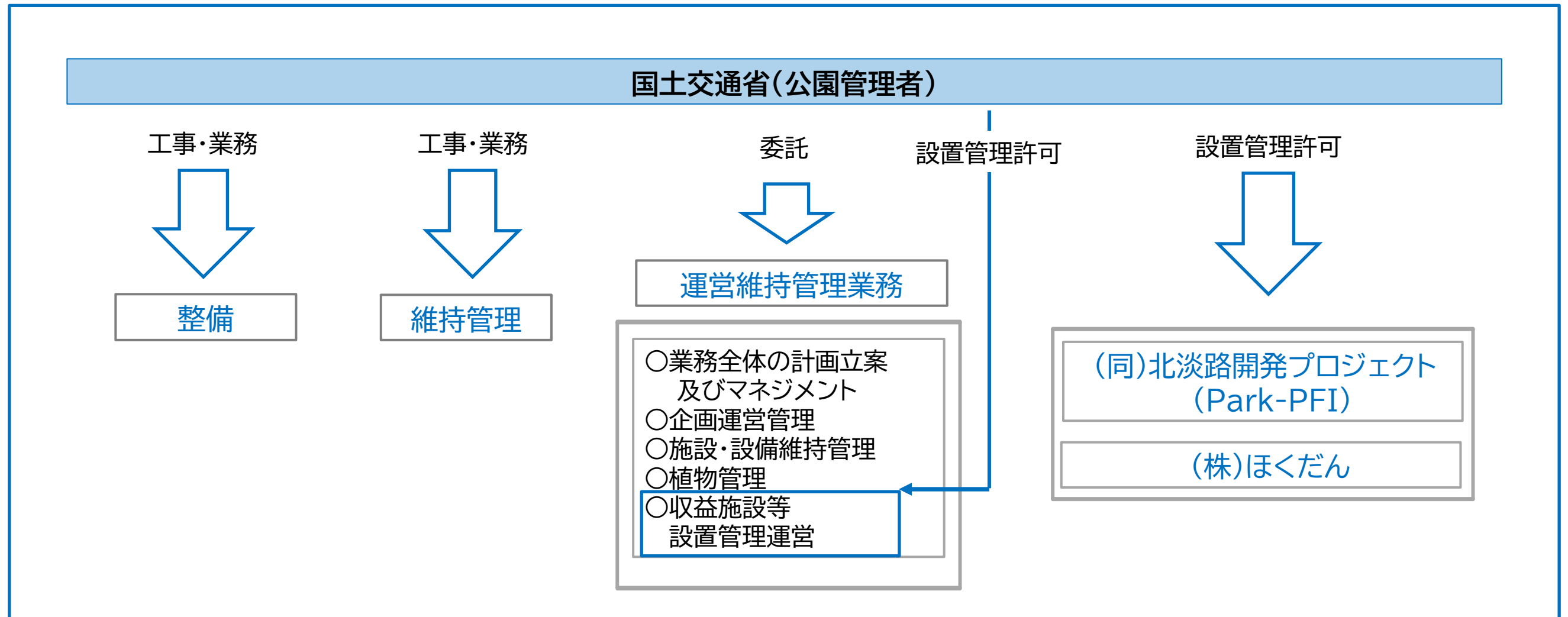
■整備・管理の方向性



公園の管理主体を取り巻く機関

園内における民間事業者等の構成

- 国土交通省が公園管理者として公園全体の整備・維持管理を行っているが、運営維持管理業務を委託している他、Park-PFI等を活用した民間事業者等による複合温浴施設の整備・運営と組み合わせることで、官民連携による多様なレクリエーションを提供している。



包括連携協定の締結

○兵庫県立淡路景観園芸学校・兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科
○兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県公立大学法人兵庫県立大学自然・環境科学研究所

その他各団体

○市民活動団体(令和7年7月現在15団体)
○ボランティア団体(海峡フレンズ・里山フレンズ)

- 「兵庫県立淡路景観園芸学校・兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科（以下大学院）」「兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県公立大学法人兵庫県立大学自然・環境科学研究所（以下博物館）」と2024年に国営公園と大学院・博物館との間で、公園の利用促進、園内での研究推進・人材育成を目的とし「**包括連携協定**」を締結している。
- 博物館との連携については、専門家が公園内でセミナーや展示イベントを実施したり、園内で生態系の保全等様々な研究を実施している。

博物館の専門家によるセミナー・イベント



移動博物館「ゆめはく」
での専門家による解説

園内にて研究を実施



生態系の保全や
希少動植物の保全
に関する研究



博物館講師による
プログラム（冬虫の観察）



園内の地層における
化石の発掘調査



大学院・博物館との連携(大学院との連携)

- 「兵庫県立淡路景観園芸学校・兵庫県立大学大学院緑環境景観マネジメント研究科（以下大学院）」「兵庫県立人と自然の博物館・兵庫県公立大学法人兵庫県立大学自然・環境科学研究所（以下博物館）」と2024年に国営公園と大学院・博物館との間で、公園の利用促進、園内での研究推進・人材育成を目的とし「**包括連携協定**」を締結している。
- 淡路・神戸地区において大学院の演習を実施したり、大学院の専門家が公園の魅力向上に向け景観やプログラムについてアドバイスするなどして連携を図っている。

公園魅力向上に向けたアドバイス



新たなフォトスポットの提案、ユニバーサルデザイン、専門的な知識を取り入れた学びや遊びを提供するプログラムについてアドバイスを実施

大学院の演習を実施



現地踏査を行い、神戸地区では市民活動の活性化や里山資源の利用・整備のあり方についてを淡路地区では公園利用の充実について検討・提案するなど演習を実施



ボランティア団体の活動

- ・ 淡路地区では、公園の魅力や活動の可能性を発見し、人々に伝えることを目的に組織化されたボランティア団体「**海峡フレンズ**」が園内で様々な取組を実施しており、その活動は組織化20年が経過している。
- ・ 大きく「**園芸福祉**」「**市民花壇**」「**公園ガイド**」「**イベント企画**」の4つのグループに分かれ、それぞれのグループにて自主活動プログラムの企画や実践、広報等の活動を随時行っている。
- ・ 活動に伴ってボランティアの習熟度も向上しており、園内に犬連れの利用者が多いことに着目し、犬と一般来園者が一緒に写真を撮影できるフォトスポットをイベント時に設置するなど、公園の利用状況を把握しながら活動の場を広げている。（令和6年度時点の登録者数は**55名**）

園芸福祉



植木鉢の絵付け

市民花壇



チューリップの花びらアート

公園ガイド



公園ガイド勉強会

公園来園者に園内案内を実施

イベント企画



公園大工

Park-PFI事業 その1

- 平成30年度にPark-PFI事業者を公募し、令和2年度に国営公園では全国で初のPark-PFI事業計画を認定した。
- 官民連携により、民間事業者（認定計画提出者）が収益施設として複合温浴施設、カフェ・レストラン及び施設周辺の広場等を、公園管理者がプロムナードや駐車場（186台）等を整備し、令和4年7月「シースケープ・ラウンジ」エリア（約2.7ha）とPark-PFI施設「アクアイグニス淡路島」の供用を開始した。
- 車中泊やヘリの遊覧に関するイベント、従業員駐車場の区域を活用したトレーラーハウスによる宿泊事業の試行など、公募対象公園施設を中心としながらも多様なソフトの展開が図られている。

位置図

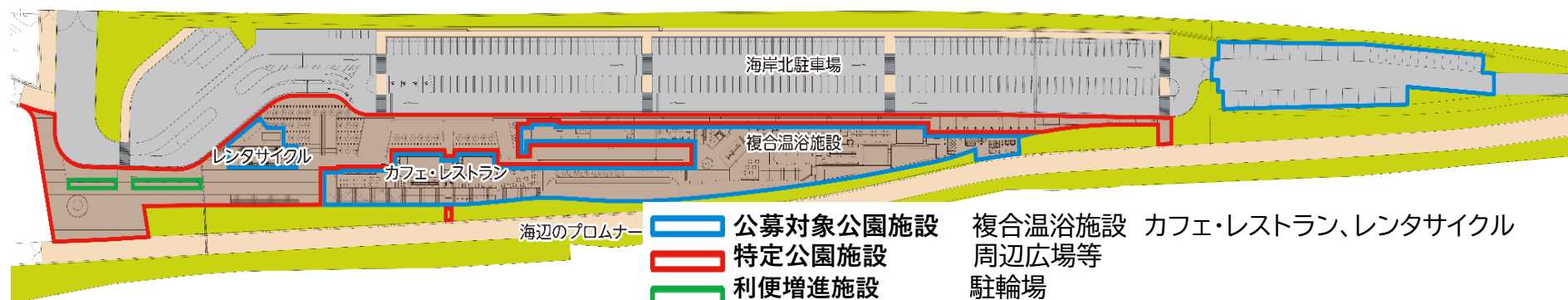


事業概要

【施設名称】
 アクアイグニス淡路島
【認定計画提出者】
 (同)北淡路開発プロジェクト
【運営会社】
 (株)アクアイグニス淡路島
【事業面積】
 約0.9ha
【事業期間】
 20年(R3.6～R23.5)



アクアイグニス淡路島 外観



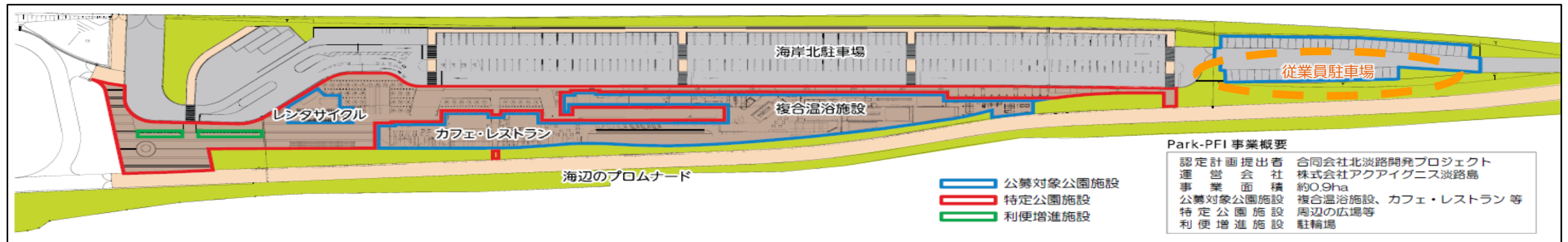
海岸ゾーン「シースケープ・ラウンジ」(2.7ha)平面図



大阪湾を望む屋外プール

- 利用者からの宿泊ニーズ等を踏まえ、Park-PFI事業者によるトレーラーハウスでの宿泊事業を試行的に実施している。

位置図



事業概要

公募対象公園施設である従業員駐車場の区域を活用して、トレーラーハウスによる宿泊事業を試行的に実施するもの

期 間 令和7年3月7日～令和9年3月6日
 (令和7年6月5日開業)

施 設 トレーラーハウス18台(325㎡)
 ウッドデッキ18箇所(418.7㎡)
 人工芝(646.4㎡)
 トイレ1棟(9.9㎡) など

事業主体 合同会社北淡路開発プロジェクト
運営会社 株式会社アクアイグニス淡路島

設置状況写真

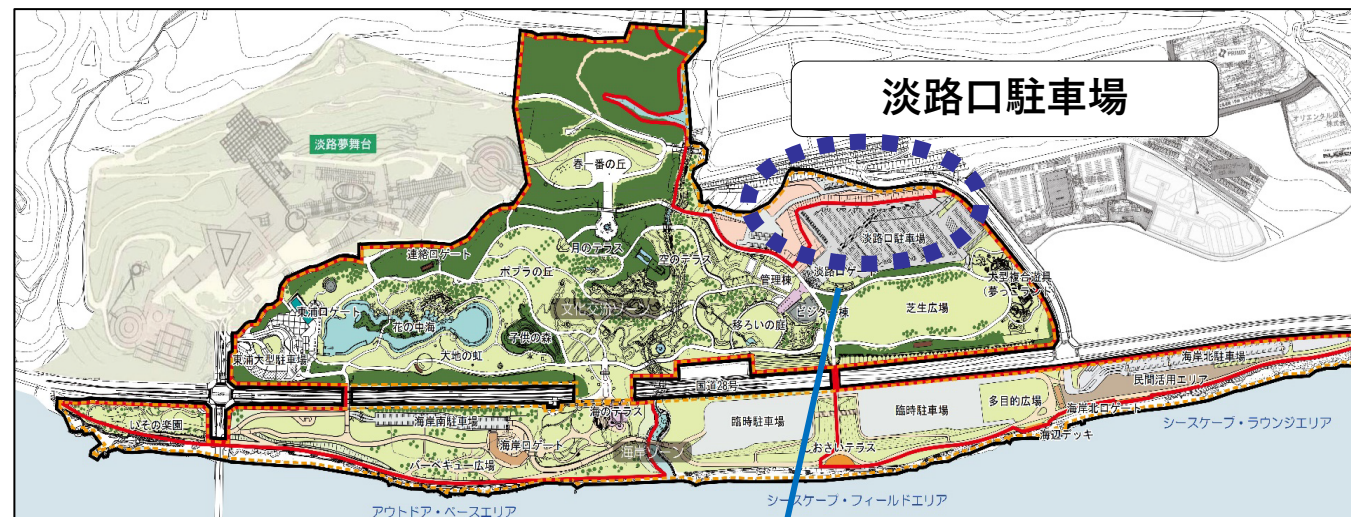


再生可能エネルギーの導入

- 兵庫県淡路市の「淡路市におけるコンパクトシティ×里山ハイブリッド脱炭素化モデル事業」が環境省より選定、国営明石海峡公園を含めたエリアが脱炭素先行地域（※1）として選定された。（2022年4月26日付）
- 淡路市との共同事業者である株式会社ほくだんが、国営明石海峡公園の駐車場の一部に太陽電池発電施設（カーポート）を設置し、2025年7月1日より稼働している。

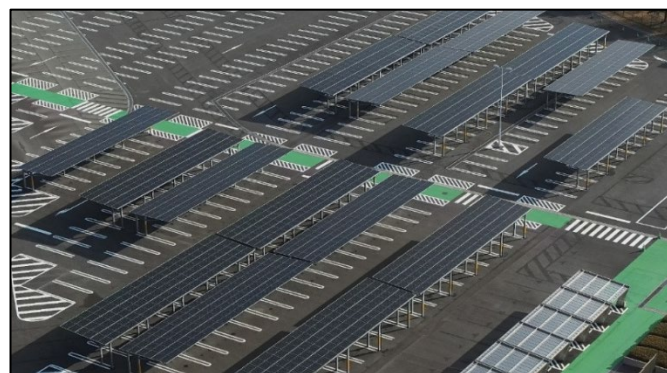
※1 脱炭素先行地域：国営明石海峡公園、夢舞台サスティナブル・パーク、市営南鶴崎団地、東浦花の湯、AIE国際学校

位置図



事業概要

設置場所	国営明石海峡公園 淡路地区(淡路口駐車場)
根拠法令	都市公園法第5条(設置管理許可)
許可期間	10年
設備	カーポート17基(自動車136台分) 太陽光パネル969枚 蓄電池システム 1台
機効	発電容量 421.5kw、年間発電量 約36万kwh
能果	淡路地区が消費する電力の約60%を 再生可能エネルギーで賄うことが可能
工事開始	2024年5月より
供用開始	2025年7月1日



第2期Park-PFI事業について

- 「アウトドア・ベースエリア」の一部を中心としたエリアにて、質の高い海辺のアウトドアライフやスポーツアクティビティを楽しむことが出来るよう整備を進めるために、第2期Park-PFI事業の公募を令和7年4月より開始。令和7年度末に公募設置等予定者等の決定を行い令和8年6月に公募設置等計画の認定、同年9月に基本協定の締結を目指している。

位置図



第2期Park-PFI事業(これまでの取組)

- アウトドア・ベースエリアに関しては、令和4年度～令和6年度にかけて、マーケットサウンディング調査の結果を踏まえ、Park-PFI事業公募を実施したが、公募設置等予定者を選定しない結果となった。
- 事業公募の結果から、公募設置等指針やスケジュールに関する事業者の意見を把握するため、参加登録企業に対してアンケート及びヒアリングを実施した。
- ヒアリング結果を踏まえて、令和7年度より有識者委員会における議論を経て、公募設置等指針の一部を変更し、新たに公園管理者としての考えを示す「**推進方針**」を策定のうえ、再度公募を実施した。

再公募実施までの検討経緯



前回公募との主な変更点

- 公園管理者としての考えを「**国営明石海峡公園アウトドア・ベースにおける官民連携による魅力向上推進方針**」として策定
- 国の護岸改修について、整備完了予定時期やイメージ図などを追記
- 海岸ロケット棟及び広告塔について、提案をしない場合は管理運営を求めないことに変更
- 公募対象公園施設等についての建築面積の上限や高さ制限、公募対象区域になじむ植物を追記
- 提案を期待する内容を評価項目へ反映(例「利用者層・利用者数の想定」「対象地周辺との連携、配慮」「安全・安心な施設整備計画・アクセスの考慮」「緑とオープンスペースの確保」などを評価項目に追加)
- 事業者は、公募に対して参加登録を行う際、併せて「**提案概要**」の提出を行うこととし、委員会から「提案概要」に対して、意見を通知するプロセスを追加



有識者委員会の様子



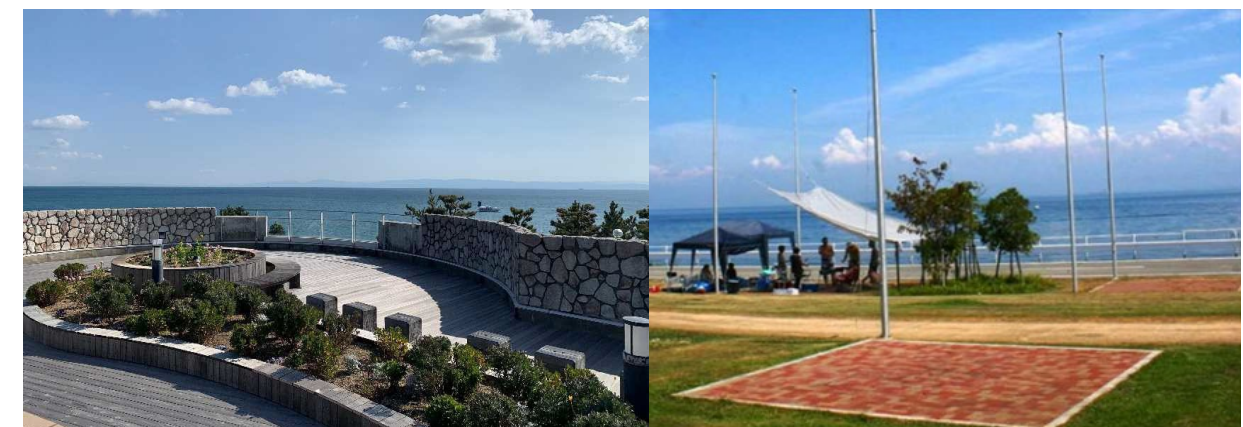
第2期Park-PFI事業(推進方針の策定)

- 「アウトドア・ベースエリア」のうち、今回公募対象地となる区域は、対象地1の「バーベキュー広場」及び対象地2の「いその楽園」である。基本計画に基づき、バーベキュー広場の再整備等を行い、手ぶらで来ても楽しめるバーベキューを中心として質の高い海辺のアウトドア体験ができる施設の整備等を想定。
- アウトドア・ベースエリアの再整備・管理に向けそのあり方について国の考えをとりまとめ公園管理者としての考えを示す「**国営明石海峡公園アウトドア・ベースにおける官民連携による魅力向上推進方針**」を策定した。

「アウトドア・ベースエリア」における官民連携による整備・管理の方針



いその楽園



海のテラス

バーベキュー広場

利用状況

○来訪者属性

- 年齢：成人利用者の年齢層は「30～39歳」が最も多く、次いで「19～29歳」「40～49歳」。
- グループ構成：「家族利用」が最多。近年は全体の5～6割以上。
- 居住地：直近3年間では兵庫県が約4割、大阪府が約3割。
- 来訪手段：公園利用者の7～9割が自家用車を利用。

○来訪者の満足度

- 過去10年間に於ける公園を利用した総合的な満足度（満足＋やや満足＋普通）は、9割を超えている。
- 満足度調査では、「落ち着き・雰囲気・景色」「自然の豊かさ」「散策・憩いの場」「緑の量・花の演出」「子供の遊び場」などの項目が上位を占めている。

* 利用実態調査結果（平成26年度～令和5年度）



来訪者にとっての魅力、ギャップ、改善点

- 来訪者にとっての公園の魅力は「自然景観」「海を望める展望スポット」。
- 公園利用時に感じたギャップ（来園前の期待に対して十分でないと感じた点）は「飲食施設」「お土産販売施設」「自然景観」。
- 公園利用における改善点は、約半数が「とくにない」と回答。その他「施設更新」「休憩スペース」など。

■魅力

本公園の魅力と思うことを教えてください。

公園利用におけるニーズ		回答数
①	自然や景観	108
②	海を望める展望スポット	102
③	水景施設（滝、池など）	28
④	季節ごとの花	49
⑤	広大な芝生広場	36
⑥	子ども向け遊具	26
⑦	お土産販売施設	23
⑧	園内の飲食施設	20
⑨	その他	0

（複数回答）

■ギャップ

本公園を利用して、来園前の期待に対して、実際の内容が十分でないと感じた点があれば教えてください。

利用時に感じたギャップ		回答数
①	自然や景観	24
②	海を望める展望スポット	18
③	水景施設（滝、池など）	10
④	季節ごとの花	11
⑤	広大な芝生広場	9
⑥	子ども向け遊具	16
⑦	お土産販売施設	25
⑧	園内の飲食施設	38
⑨	その他	24

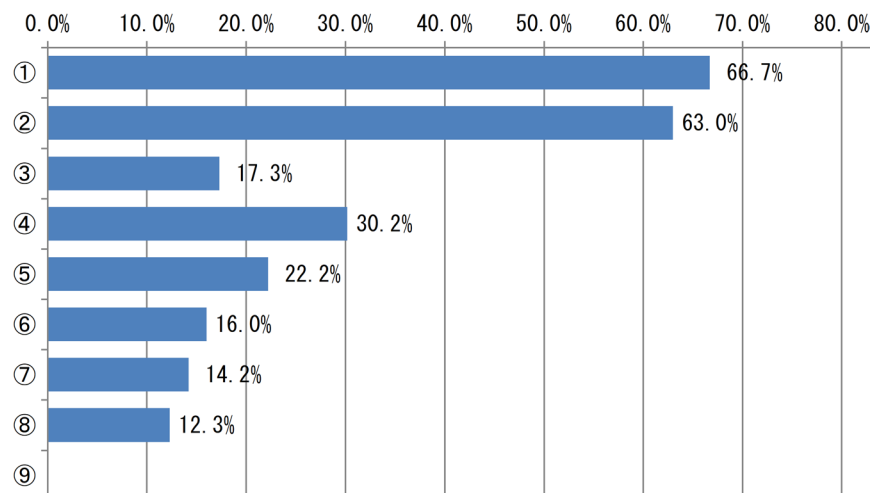
（複数回答）

■改善点

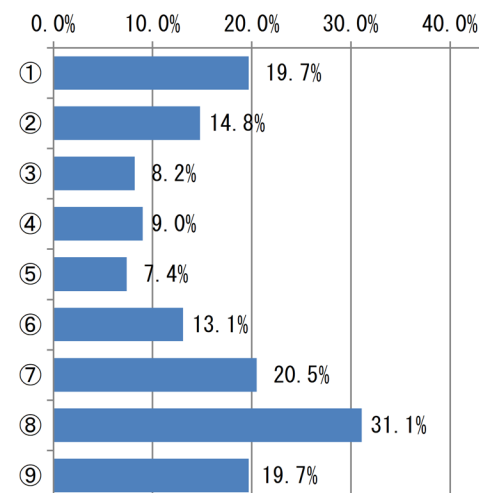
本公園に改善して欲しいことを教えてください。

改善点		回答数
①	施設・設備（トイレ・ベンチなど）を新しいものに更新してほしい	21
②	園内移動サービスを充実してほしい	15
③	ベビーカーや車いすでも快適に利用できる環境を整備してほしい	4
④	園内案内・サインをわかりやすく改善してほしい	11
⑤	休憩スペース（日陰、ベンチ、東屋など）を増やしてほしい	26
⑥	樹木や植栽を適切に整備し景観を良くしてほしい	7
⑦	ペットと一緒に楽しめるエリアやサービスを増やしてほしい	7
⑧	その他	1
⑨	とくにない	44

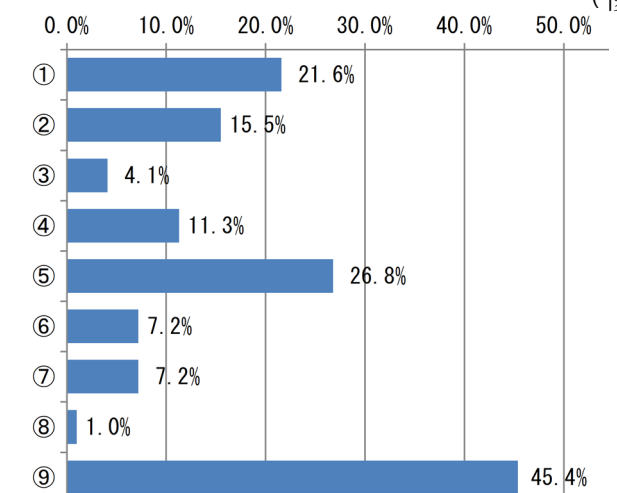
（複数回答）



(N=163)



(N=122)



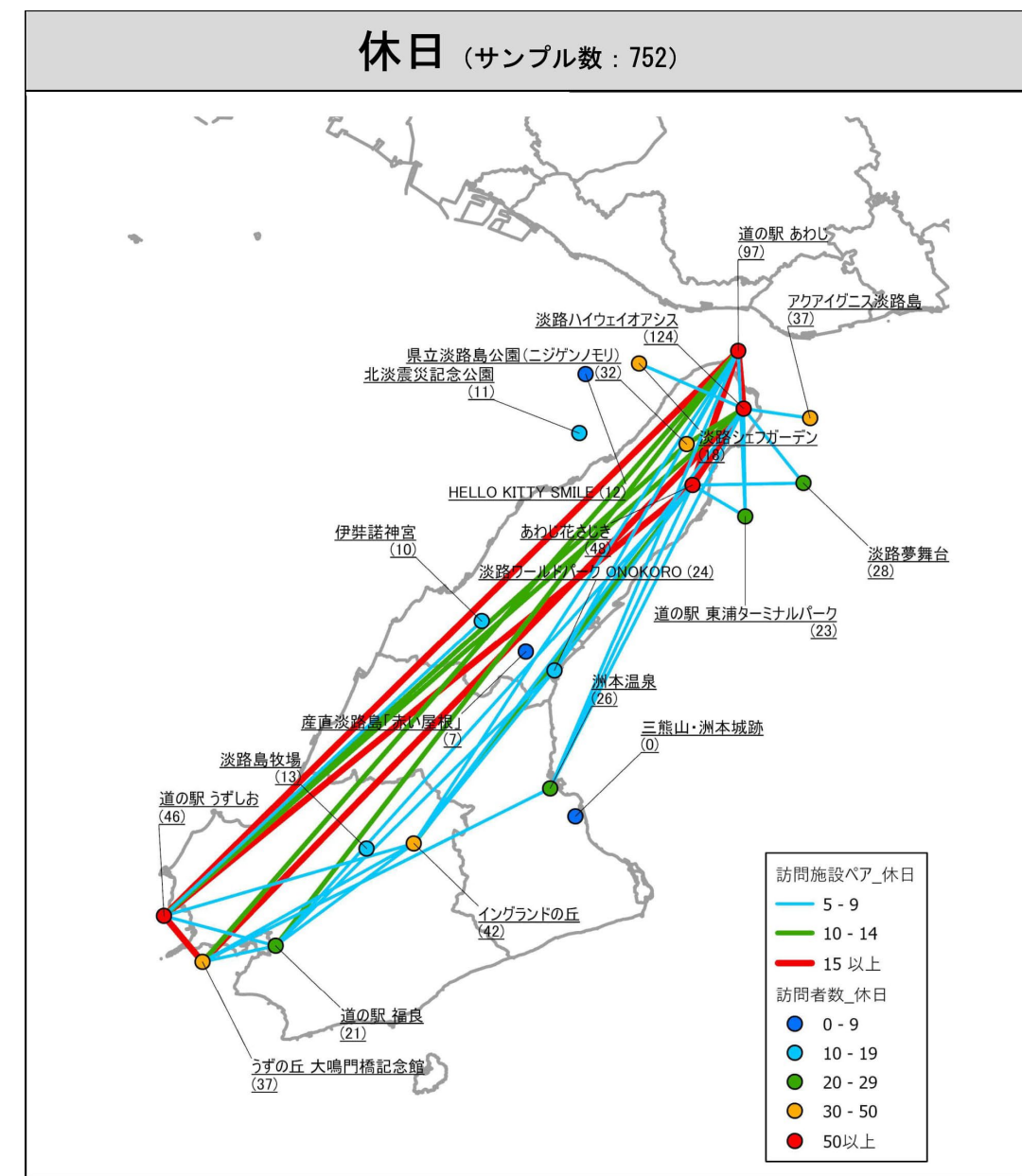
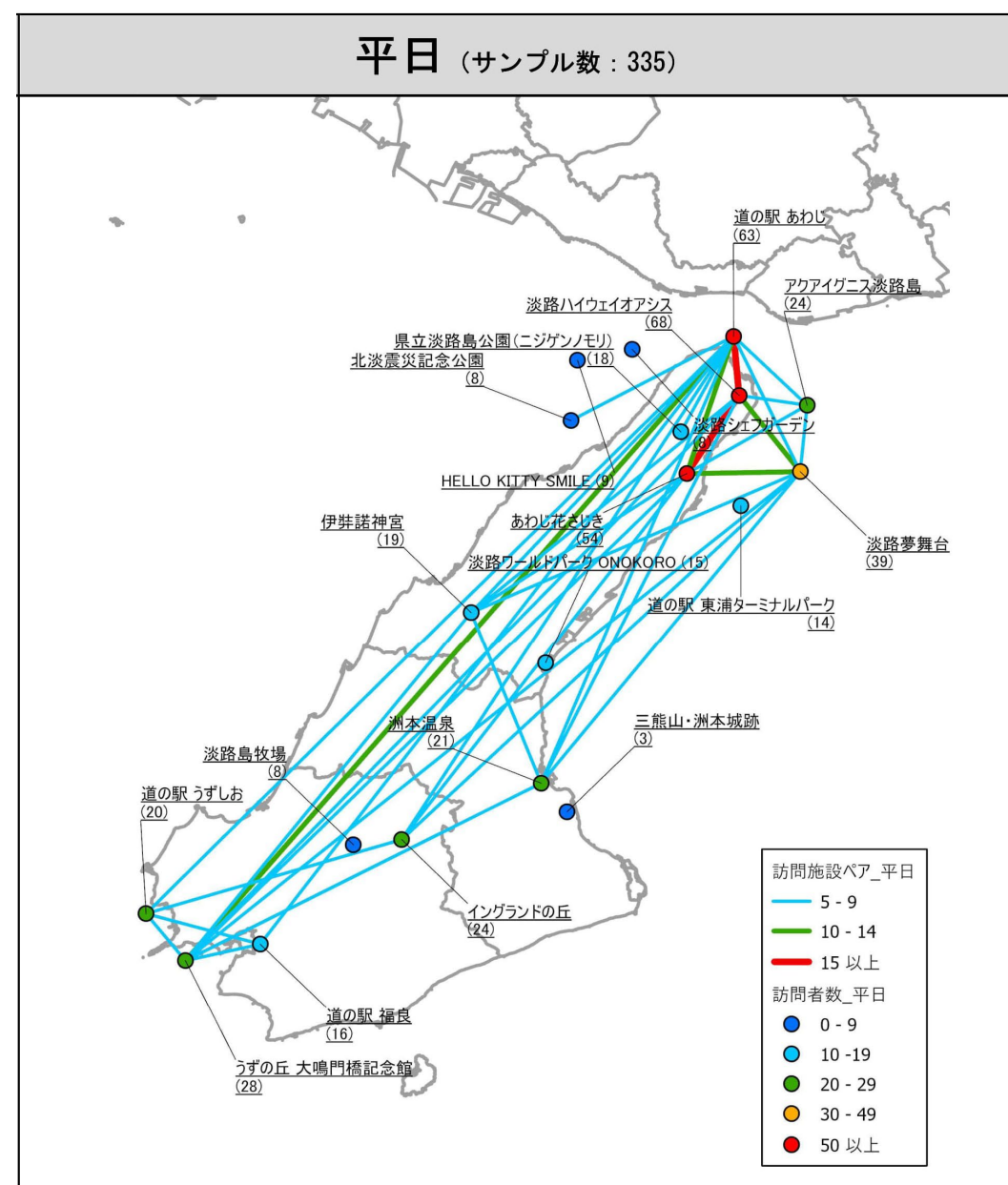
(N=97)

* 島外からの来訪者を対象にしたモニターアンケート調査結果（R7年度）

- 「公園とセットで周遊されている施設」の調査結果から、公園を訪れた利用者の多くは淡路島内の他の施設にも立ち寄っていることがわかる。
- 「平日」は、「道の駅あわじ」「淡路ハイウェイオアシス」「あわじ花さじき」などの**淡路島北部のみを**、「休日」には、公園近隣の施設から「道の駅うずしお」などの**南あわじ地域まで周遊**。

※点の色は島内施設の来訪者数を示しており、線は公園とセットで来訪された2施設間の組み合わせの数を表している

※青から赤にいくに従って結びつきが多く、多数の施設間でか活発に回遊が発生しているといえる

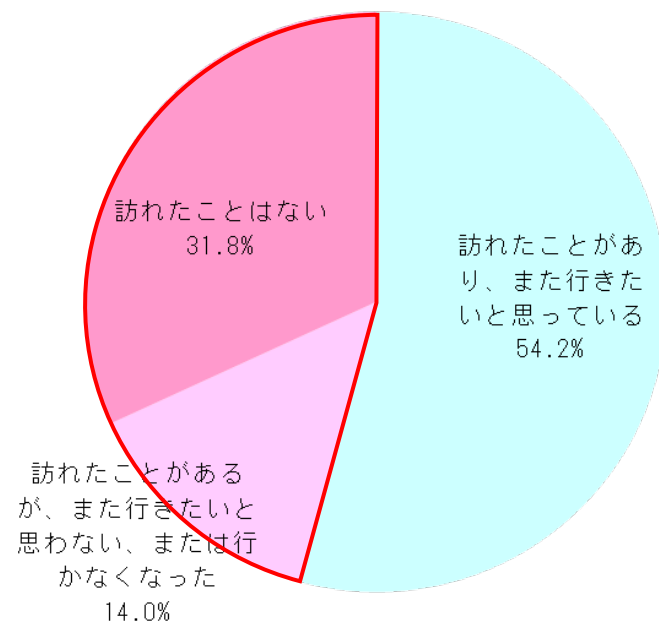


* 公園利用者の島内周遊状況 (R6年度)

国営明石海峡公園を利用しない理由

- 公園の来訪実績については、**5割以上が「来訪実績があり、再来訪意向がある」**と回答。
- 公園に来たことがない人や、訪れたことはあるが、また行きたいと思わない方に対するアンケート結果では、来園しない理由は「**とくにない**」が一番多い。

■公園への来訪実績

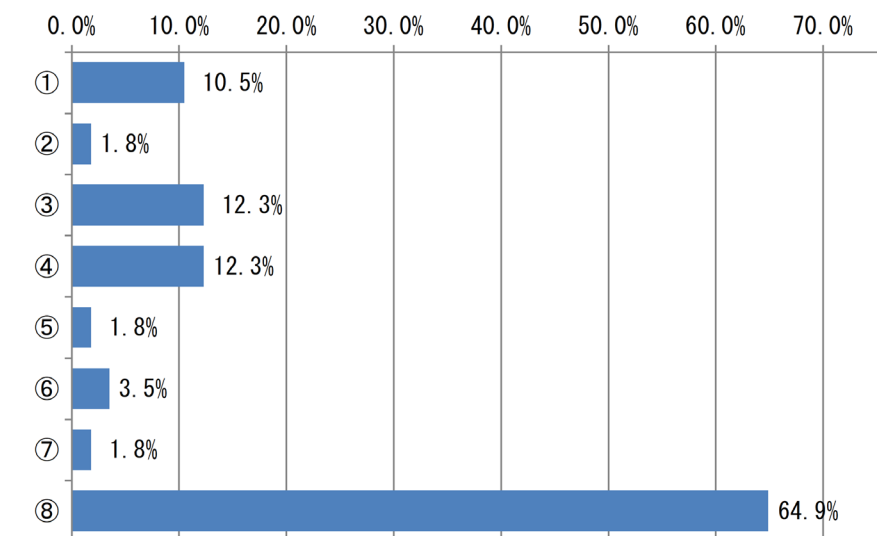


■公園を利用していない理由

本公園をこれまで利用されていない理由を教えてください。

公園未利用理由		回答数
①	最近公園を知った	6
②	公園までの道や駐車場が混雑する	1
③	公園に関する情報が少ない/分かりにくい	7
④	入園料がかかる	7
⑤	屋内施設が少なく、天候に左右されやすい	1
⑥	魅力的な施設やイベントが少ない	2
⑦	その他	1
⑧	とくに理由はない	37

(複数回答)



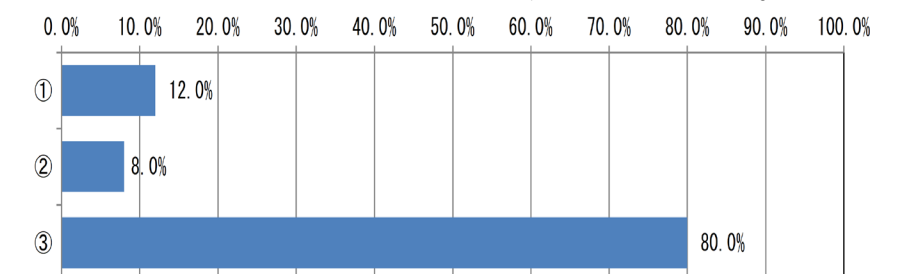
(N=57)

■公園に行きたいと思わない理由、行かなくなった理由

本公園に行きたいと思わない理由、または行かなくなった理由として当てはまるものを教えてください。

離脱要因		回答数
①	公園の機能やサービスに不満がある	3
②	個人的な事情	2
③	とくに理由はない	20

(複数回答)



(N=25)

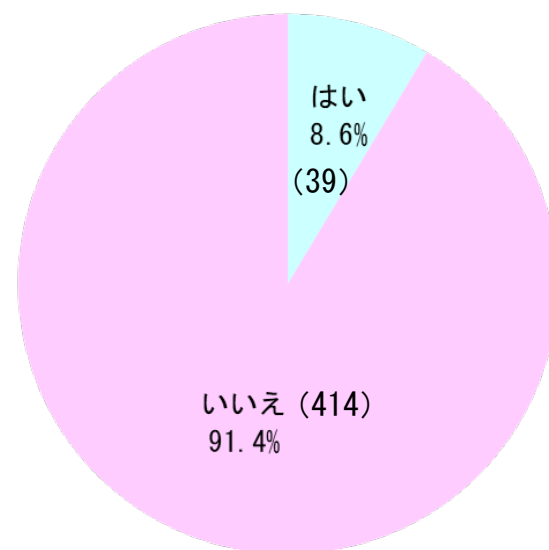
* 島外からの来訪者を対象にしたモニターアンケート調査結果 (R7年度)



- 「ペット同伴者」は、淡路島観光においては全体の9%、公園利用においては全体の13%。
- 「ペット同伴者」の公園利用における改善点は、「施設・設備の更新」「休憩スペースの増設」「ペットと一緒に楽しめるエリアやサービスの拡充」の割合が高かった。

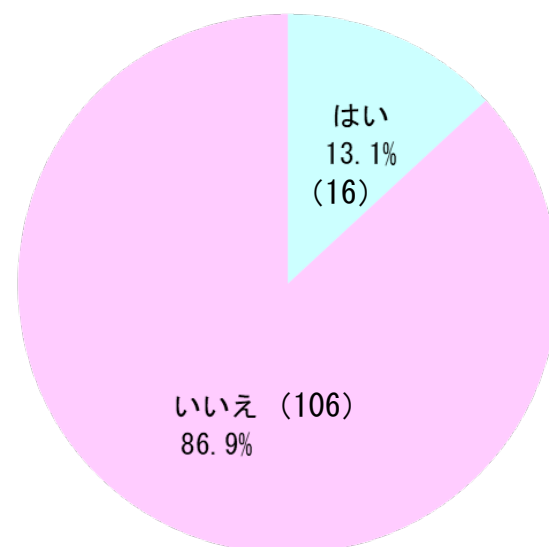
■淡路島観光におけるペット同伴者

ペットは連れて行きましたか？（単一回答）



■公園利用におけるペット同伴者の割合

ペットは連れて行きましたか？（単一回答）



■ペット同伴者のニーズ

ペット同伴状況×公園利用における改善点

ペット同伴状況×改善点		回答数	
		同伴あり	同伴なし
①	施設・設備（トイレ・ベンチなど）を新しいものに更新してほしい	8	13
②	園内移動サービスを充実してほしい	3	12
③	ベビーカーや車いすでも快適に利用できる環境を整備してほしい	2	2
④	園内案内・サインをわかりやすく改善してほしい	3	8
⑤	休憩スペース（日陰、ベンチ、東屋など）を増やしてほしい	6	20
⑥	樹木や植栽を適切に整備し景観を良くしてほしい	2	5
⑦	ペットと一緒に楽しめるエリアやサービスを増やしてほしい	5	2
⑧	その他	0	1
⑨	とくにない	2	42

* 島外からの来訪者を対象にしたモニターアンケート調査結果（R7年度）

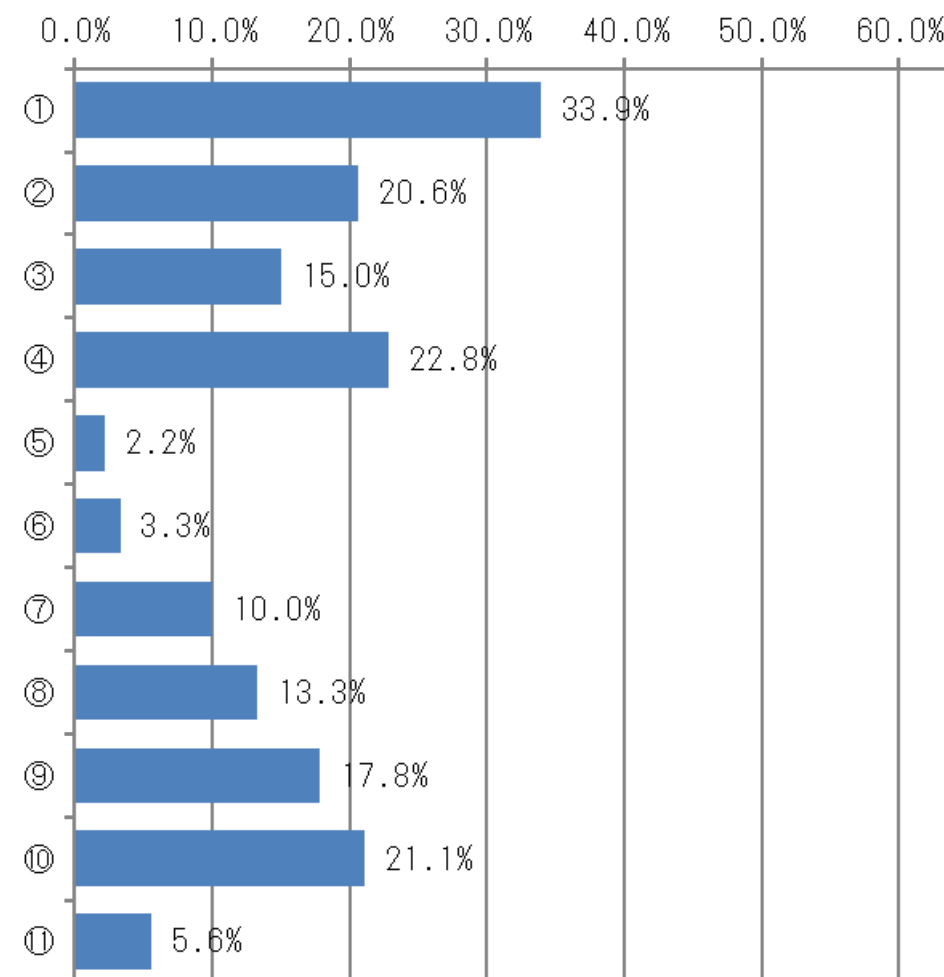


- 「人から聞いて」が3割以上、次いで、「テレビ」「市町村等の広報誌」、インスタ、X、Facebookなど「SNS」の総数が2割程度

■情報源

本公園の情報をどこで知りましたか？（複数回答）

情報源		回答数
①	人から聞いて	61
②	市町村等の広報誌	37
③	雑誌・情報誌	27
④	テレビ	41
⑤	ラジオ	4
⑥	ポスター	6
⑦	チラシ・パンフレット	18
⑧	本施設のホームページ	24
⑨	その他のホームページ（Googleなどでの検索、旅行情報サイトなど）	32
⑩	SNS（インスタ、X、Facebookなど）	38
⑪	その他	10



既往の計画・設計と社会情勢を踏まえた 将来像のキーワード



公園の将来像として盛り込むべきキーワード案

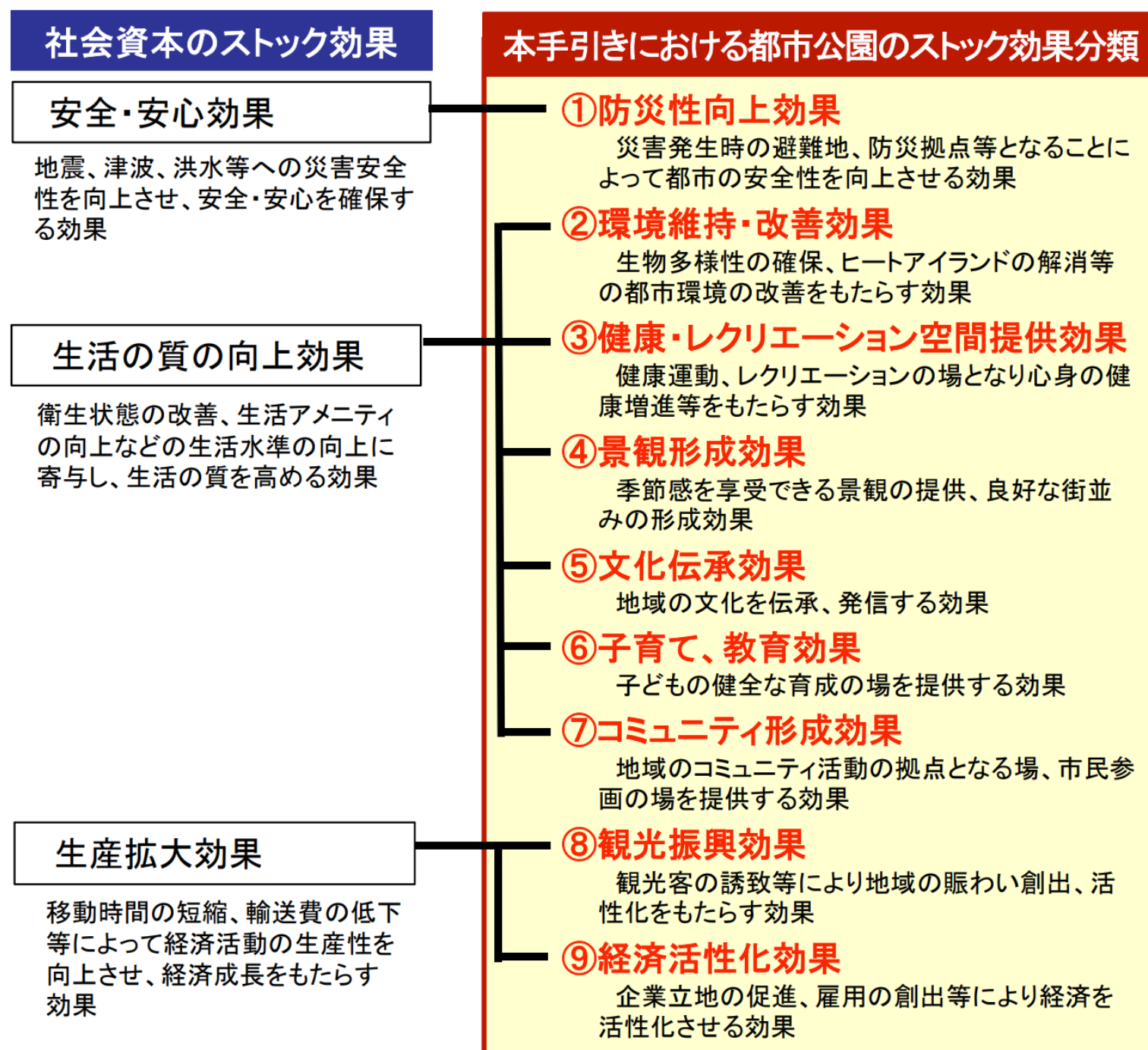
(仮称) 活性化方針の柱(案)	ストック効果に基づく項目 (都市公園のストック効果向上に向けた手引きより)	国営明石海峡公園の計画等		近年のトレンド、自治体の計画等				
		国営明石海峡公園基本計画 (令和6年2月)	整備・管理運営プログラム (令和3年6月)	第6次社会資本整備重点計画		都市公園新時代 ～公園が活きる、人がつながる、まちが変わる～ (令和4年10月)	兵庫県立都市公園の整備・管理運営基本計画(ひょうごパークマネジメントプラン) 2026-2035より	第2次淡路市総合計画後期基本計画(令和4～8年度)
				国土交通省の方向性	社会情勢の変化	都市公園を取り巻く状況の変化		
1. 防災・安全	①防災性向上効果・安心安全の確保		●広域防災拠点としての備え ●安全・安心な公園利用の推進	●暮らしと経済の礎となる防災・減災、国土強靱化 ●新技術・DXによるインフラの価値向上	●激甚化・頻発化する自然災害 ●インフラ老朽化の更なる進行	●防災・減災、バリアフリー、老朽化対策、防犯、暑熱対策等の観点公園における安全・安心な利用の確保	●老朽化対策や計画的な改修 ●安心安全な場としての充実 ●快適に利用できる環境づくり	●避難所・防災活動の拠点整備
2. 環境・景観	②環境維持・改善効果 ④景観形成効果	●国際交流にふさわしい庭園空間づくり ●土取り跡地の自然回復(重複)	●高度な植栽技術、デザインの工夫による季節の花修景の充実化 ●再生可能エネルギーの活用推進 ●土取り跡地の自然回復(重複)	●2050年カーボンニュートラルの実現 ●自然と共生する社会の実現	●環境分野における世界的な潮流への対応	●持続可能な都市を支えるグリーンインフラとなる公園 ●地球環境問題の新たな潮流への対応(自然を活用した解決(NbS)/ネイチャーポジティ)	●気候変動への対応 ●生物多様性確保	●公園緑地の充実 ●自然環境・景観の保全・共生
3. 子育て	③健康・レクリエーション空間提供効果 ⑥子育て、教育効果	●環境への理解を深める場	●環境学習・園芸福祉の場(重複)	●包摂的な共生社会に向けた地域づくりと豊かで快適な生活環境(重複)	●人口減少・急速な少子高齢化がもたらす地域の危機 ●あらゆる人々が充実した暮らしを送ることができる環境の必要性		●こどもの健やかな成長の促進	
4. 健康・福祉	③健康・レクリエーション空間提供効果	●レクリエーションゾーンの形成 ●ダイバーシティ&インクルージョンに配慮した公園づくり	●環境学習・園芸福祉の場(重複)	●包摂的な共生社会に向けた地域づくりと豊かで快適な生活環境(重複)		●インクルーシブデザインに配慮した公園の空間づくり	●心身の健康の増進	●健康づくりの推進 ●スポーツ・レクリエーション機会の充実
5. 観光・経済・交流	⑦コミュニティ形成効果 ⑧観光振興効果 ⑨経済活性化効果	●瀬戸内海の広域観光周遊ルートにおいて広域的な観光客を取り込む公園 ●地域連携	●多様なイベント開催による地域活性化、交流促進 ●民間活力の導入による、魅力向上 ●多様な主体の参画、地域との連携の促進	●地域経済の核となる集積づくりと広域連携 ●官民の連携・協働 ●地域の住民など多様な関係者の参画	●地域における暮らし方や働き方の多様化	●社会課題解決に向けた活動実践の場となる公園 ●Park-PFI制度の創設 ●人と人とのリアルな交流、イノベーションを生み出す場となる公園 ●心豊かな生活を支えるサードプレイスとなる公園	●多様な過ごし方の実現 ●地域連携の推進と地域文化の保全	●広域の観光・交流拠点 ●市民交流の推進

ストック効果



都市公園のストック効果について

- 都市公園のストック効果は、以下9つの効果に分類・整理される。
- 社会資本によるストック効果とは、整備された社会資本が機能することによって、整備直後から継続的に中長期にわたり得られる効果のこと。

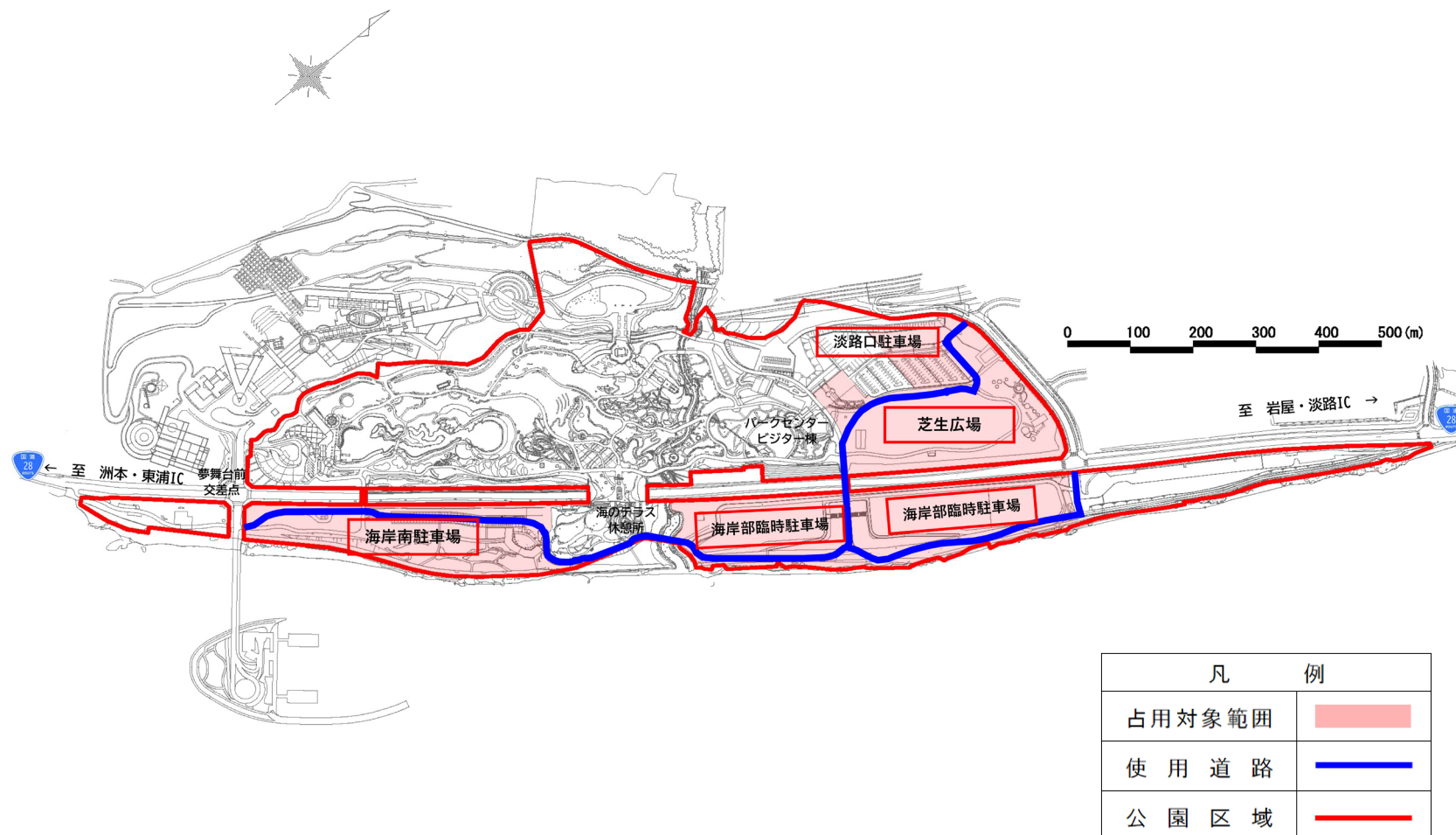


※それぞれの効果は相互に関連しており、厳密に分けられるものではない。

参照：都市公園のストック効果向上に向けた手引き（国土交通省都市局公園緑地・景観課 平成28年5月）

①防災性向上効果 広域防災拠点としての利用

- ・ 淡路地区は、兵庫県地域防災計画（令和6年11月版）において広域防災拠点として設定されている。
- ・ 平成27年3月1日には、自衛隊が迅速かつ適切な災害派遣活動を行う広域防災拠点として淡路地区を活用することを目的とした「**災害時等の国営公園の占用に関する協定**」等を締結した。



自衛隊との協定に基づく占用対象範囲及び使用道路



ヘリ発着訓練



協定締結式



②環境維持・改善効果/④景観形成効果 土取り跡地の自然回復

- 昭和 30 年代後半から平成 6 年まで、関西ベイエリアの埋立て用土砂として約 1 億 m^3 が搬出された岩盤剥き出しの土地に、公園事業によりなだらかな地形や人工池をつくり、約 340 種類 8 万本を超える植物を植栽。
- 年間を通じ立体的で多品種の花壇デザインによる美しい花の景色を創出し、花の島・淡路島を代表する観光の中心的な施設となっている。
- 今では樹木が生長し、失われた緑が美しく回復している。



1994年 土取り跡地



⑥子育て、教育効果 環境学習・園芸福祉の場を提供する公園

- 淡路地区は、広大な敷地内に大規模遊具やスワンボート他、多様な遊びの場を提供しているだけでなく、地元大学やボランティア団体等と連携した自然豊かな公園の特性を活かした体験学習教室など、自然豊かな環境で遊び、学べる場を提供している。



スワンボート、大規模遊具



親子防災教室



コスモス摘み取り体験



親子海辺のいきもの観察会



世界の昆虫標本の展示



⑦コミュニティ形成効果 年間を通じてボランティアが活躍している公園

- ボランティア団体「海峡フレンズ」は20年を超えた活動の中で、一般来園者への園内案内や講習会開催など公園利用の状況を把握しながら、各自の活動を実施するだけでなく、公園管理センターとの共催で「公園ガイド説明会」を開催するなどその裾野の拡大に努めている。



園内案内



フラワーアレンジメント講習会実施



公園ガイド説明会開催

○登録ボランティアの活動実績（R6年度）

部会	登録者数	活動回数	延べ参加者数
園芸福祉	9	16	101
公園ガイド	17	37	231
コテージガーデン	11	23	162
草木染め研究会	13	12	77
公園大工	5	11	44
ペイントクラス	6	12	72
フラワーアート	9	8	52
植樹活動	4	9	33
野点	12	2	14
ニュースレター作成	0	0	0
合計	86	130	786

全体活動	活動回数	延べ参加者数
総会	1	30
定例会	11	298
合計	12	329

※一人が複数の部会に重複して登録



③健康・レクリエーション空間提供効果、⑧観光振興効果、 ⑨経済活性化効果 多様なイベントによる広域レクリエーション拠点の創出

- 淡路地区園内では、広い芝生広場や駐車場を活かし、主催・共催・持込により多種多様なイベントが開催されるとともに、利用者に対して多様な魅力を提供することで、**広域レクリエーション拠点の創出**や**地域経済の活性化**にも貢献している。



淡路島ロングライドイベント

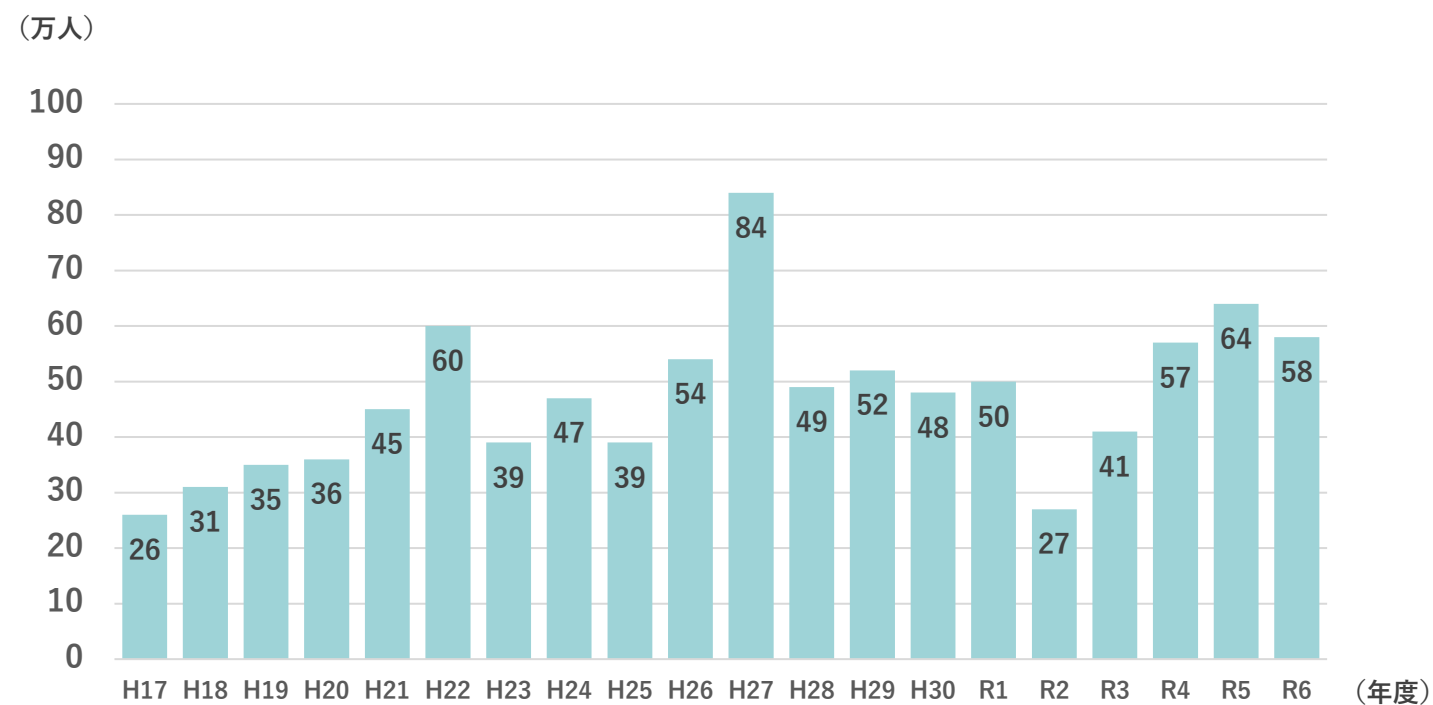


淡路花みどりフェア2025

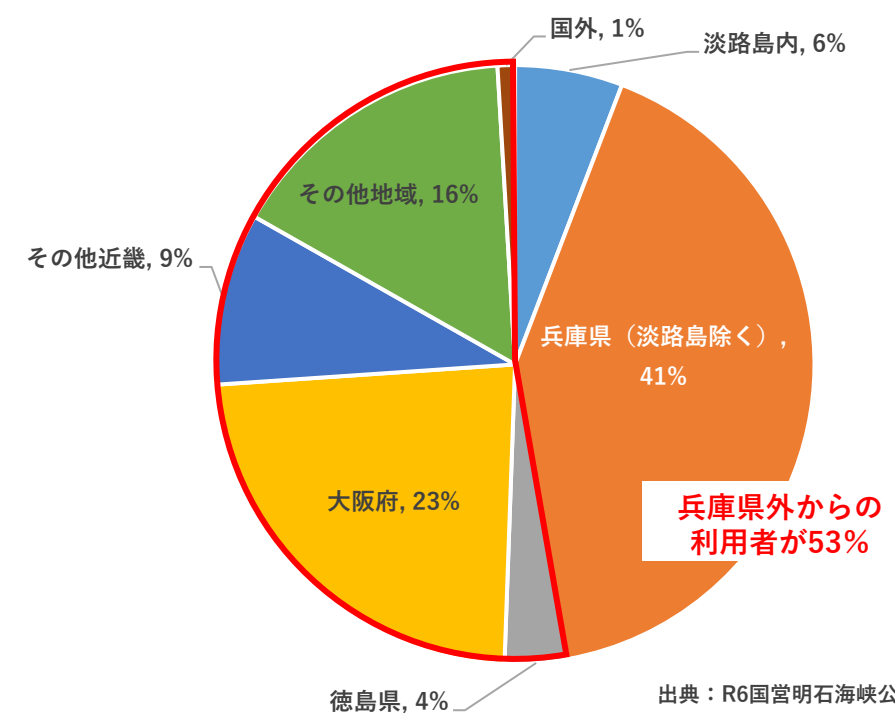


淡路市夏まつり

過去20年間の入園者数推移



利用者居住地割合 (R6年度)



課題

課題＝遊具や施設等の老朽化

- 開園から**20年以上が経過**し、施設の老朽化が進行しており、長寿命化計画の下、建物点検、遊具定期点検、施設設備等不具合修繕報告等を踏まえた対応を実施している。
- 限られた予算の中での対応となること、開園当初と同様の改修は交換部品の入手困難な状況などもある。

■ 淡路地区の施設図



■ 近年の修繕対応



子供の森（ジャングルジム安全措施）
頭部胴体首挟み込み防止ネット設置



夢っこランド（ロープウェイ下マット反り返り）
ゴムマット撤去→真砂土舗装



レストラン花屋敷（天井剥がれ）天板補強



海のテラス（椅子腐食）椅子撤去→新規設置



移ろいの庭（園路凹凸）園路補修

課題＝水系施設の老朽化

- 園内の水系施設は開園当初から整備され、本地区の魅力向上に大きく寄与してきたものの、開園から20年以上が経過し、故障による使用停止も発生している。
- 水系施設は水道・電気・消耗品などのランニングコストが高いため、効果的・効率的な改修・更新とすることが必要である状況。

■淡路地区の施設図



■水系施設



課題＝電気通信設備の更新

【既設受変電設備】

- ・ **既設受変電設備**については、耐用年数（設置後30年を想定）を迎えるため、令和13年度から令和16年度にかけて計画的に更新が必要となっている。

【施設管理・監視システム】

- ・ **施設管理設備**（監視処理装置・監視端末）及びCCTVカメラの画像配信サーバは、導入から20年以上経過し老朽化
- ・ システムおよび老朽機器の計画的な更新が必要となっている。

■東浦口ゲート



■春一番の丘



■管理棟



■海のテラス





課題＝樹木関係（マツ枯れ他）

- ・ 開園区域内においては、国道28号周辺、海岸南駐車場周辺、バーベキュー広場、いその楽園にてマツ枯れが発生しており、被害本数は25本に及んでおり、都度対応してきている。
- ・ 文化交流ゾーンの象徴的な景観を形成している「ポプラの丘」においては、台風によるポプラの倒木被害が繰り返されている（平成26、30年度）状況となっている。
- ・ サクラについて、園内で200品種を超える植栽を行っているものの、品種によって、育成状況に差がある状況。

■マツ枯れ



■ポプラ





課題＝利用実態に合わせた公園の提供①

- 休日を中心に広域の利用が確認されている状況を踏まえれば、島内の周辺施設との連携などによる公園の活性化を図っていくことが効果的。
- その際、公園利用者にとっての魅力であった「自然景観」「海を望める展望スポット」や、ギャップ（来園前の期待に対して十分でないと感じた点）であった「飲食施設」を踏まえた連携先を模索する必要。



淡路花祭2026 モデルコースより
<https://awajihanamatsuri.com/course/10.html>



- ・ **ペット**とともに入園可能である本公園では、園内の花畑と犬の写真を撮影する利用者も多数見られる。
- ・ 淡路島内の周辺施設では、**ドッグラン**が併設されているSAや、**ペットと一緒に楽しめる飲食施設**等があり、また本公園の「シースケープ・ラウンジ」エリアに**犬雑貨を販売するテナント店**「DoggyWorks」が令和7年7月にオープンするなど、**犬連れ層**をターゲットとした施設が多数ある状況。

■公園周辺の犬連れ可能な施設例

淡路SA・淡路ハイウェイオアシス

- ・ 観覧車・ドッグラン・レストラン・ショップが立ち並ぶSA
- ・ ドッグランは上り下りにそれぞれ1箇所ずつ設置されており、24時間 利用可能
- ・ 淡路ハイウェイオアシスでは、ドッグカフェも設置されておりペットと飲食も楽しむことができる。



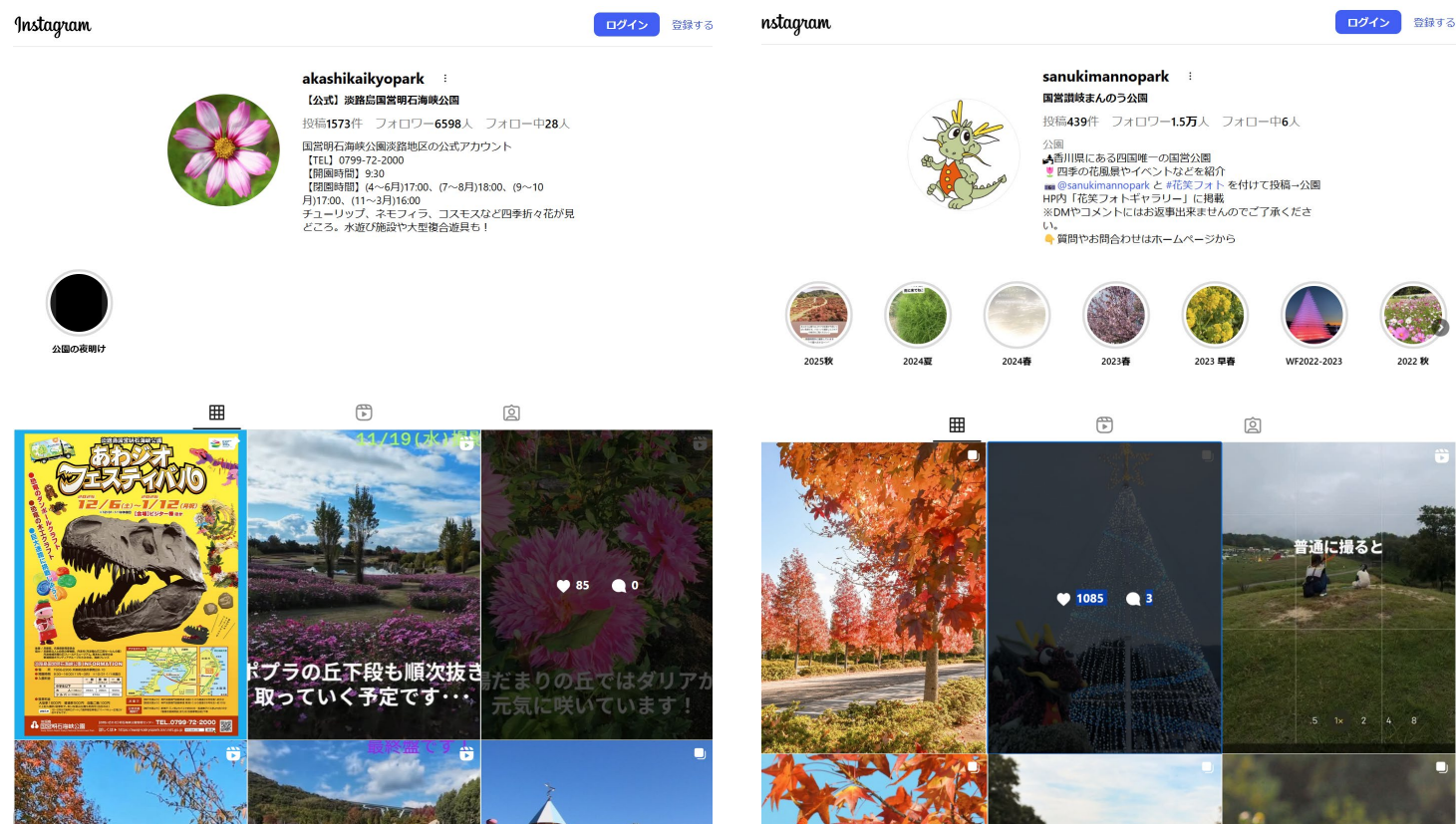
写真引用元_本四高速HP
https://www.jb-honshi.co.jp/customer_index/sapa/dogrun/dogrun-awaji.html



写真引用元_淡路ハイウェイオアシスHP
<https://www.awajishimahighwayoasis.com/food/dogcafe.html>

- ・ 淡路地区の入園者を増やす方法としては、広報により公園の魅力を外部に発信し、新規の入園者を取り込むことが重要であり、さらに公共事業の厳しい予算状況において、公園の魅力を外部に広報する手段としては、予算のかからない**SNSの活用**が必須。
- ・ 淡路地区では現在、Facebook、X及びInstagramのSNSを活用した広報を実施しているがフォロワーは4000人～6000人程度でとどまり、近隣の国営公園と比べても認知度が低い結果となっている。
- ・ 公園の魅力を知ってもらい入園者数を増やすためにまずは**SNSのフォロワー増**が必要。

■近隣の国営公園とのInstagramの比較例



現行の淡路地区Instagram
フォロワー6,500人

国営讃岐まんのう公園Instagram
フォロワー1.5万人

○投稿数に対してフォロワーが少ない

⇒投稿の質を上げる。

- ・各SNSのユーザー層にあわせた投稿を実施する。
例えば、若年層や子連れ層がよく活用するInstagramでは、「映えるスポット」「子供向け体験イベント」を中心に投稿。
- ・写真の撮り方も工夫し、閲覧者が「この場所に行って写真をとりたい」と思えるような園内景色を投稿する。

○公園の魅力が伝わりづらい

⇒園内の魅力を伝える投稿を実施する。

- ・SNSで本公園を見つけた閲覧者に対して「この公園でどういった施設があり何ができるのか」が一目で分かる投稿を実施。
- ・大きく「花・大型遊具・季節毎の自主イベント・外部イベント」の項目にわけてそれぞれの魅力を投稿。

課題＝園内移動の充実

- 利用者からは、公園の広さに起因する移動の負担や、トラムカー乗降場の少なさの指摘がなされることもある。
- 広大な園内の移動手段として、これまでトラムカー（夢ハッチ号）が淡路口ゲートから東浦口ゲートを結ぶルートで運行されていたが、老朽化により廃車となり、今年度より代替車両としてEVバスを運行している。
- 園内移動を補助するモビリティの導入や乗降場の増設が求められていることもある。加えて、園内をゆっくり周遊しながら自然や生きものとのふれあい、花や景観の鑑賞を楽しみたいというニーズも確認されている。
- これらの課題とニーズを踏まえ、今後の園内モビリティの在り方については、運行頻度やルートの見直しに加え、乗車体験に付加価値を持たせることも有効と考えられる。
- また、供用済みのPark-PFI施設で実施されているレンタサイクルとの連携なども考えられる。

■ 現行の園内移動手段



ニューBCクルーザー

EVバス

■ Park-PFI施設では自転車の貸し出しを実施



レンタサイクル シクリズムアワジ

課題＝海岸ゾーンの連続性

- 令和4年7月に、「シースケープ・ラウンジエリア」およびPark-PFI施設である複合温浴施設の供用を開始し、利用者数は増加傾向。
- 令和7年4月からは、「アウトドア・ベースエリア」の一部を中心とした区域において、第2期Park-PFI事業の公募を開始。今後さらなる利用者の増加が見込まれる。
- 海岸ゾーンは大阪湾沿いに面し、海辺の景観を楽しむことができる立地である。将来的には、ゾーン内の未供用エリアの整備・供用が進むことで、区域全体の連続的な利用が可能となり、長時間にわたり快適に過ごすことができる空間となる可能性を有しているが、無料区域である「シースケープ・ラウンジエリア」および「アウトドア・ベースエリア」の間に、有料区域である「シースケープ・フィールドエリア」があることで、利用者の回遊性が限定的となる可能性がある。

（なお、「シースケープ・フィールドエリア」の南側について、護岸整備期間は工事ヤードとして使用するため、供用できない状況が続く）

